

むかいしま ゆた しぜん い

『向島の豊かな自然と生きもの』

第60回「大好きな虫・第2弾 ギフチョウ」

チョウのことを「虫」って思えない。幼虫はさすがに毛虫・イモムシだと思うが、大人になりチョウを美しいと思うようになってからはもう「虫」と呼べなくなった。

その中でも一番好きなのは「ギフチョウ」。本州に生息しているチョウで、幼虫の時に食べる草はミヤコアオイの仲間である。尾道の生息地にはギフチョウを採って県外ナンバーの車も来るほどだ。以前、北海道ナンバーの車からいかにもその筋の人といった感じの御仁がブルーの虫捕り網を持って降りたのを見た。思わず「採りすぎぬようにお願いします」と願い出た。

昆虫採集が好きだった子どもの頃(…今でも好きである)の向島にギフチョウは生息しておらず、実は今でも向島にはいない。ギフチョウの生態が向島の環境を好まないと言えばそれまでだが、そもそも食草が無いのである。そんな「ギフチョウ」を好きな虫にあげるのは、モンシロチョウやナミアゲハのような身近なチョウではないからといった理由だけではない。その発生時期が短いうえに短命で、成虫の飛び姿になかなか出会えなかった事が要因でギフチョウ採りに夢中になったからだ。

ギフチョウに出会えず途方に暮れ、どうにもこうにも「見つけたい」「出会いたい」という気持ちを覚めた。生息場所も知らずに探し回った盪しさは、一匹のギフチョウの飛び姿をこの目で見た瞬間にリセットされ、その日がギフチョウ愛にのめりこむ初日となった！

ビデオカメラで撮影を試み、追いかけてまわした山奥の田畑の明るさ、匂い、木漏れ日、それらすべてを記憶し続けたことが新たな生息地発見の手掛かりになった。出来の悪いワイの大頭脳だがエライ!!なんでも初体験は感動的で、感動すればするほど夢中になれた。おまけのように持続力も手に入れた。

標本にあるギフチョウの4～5匹は絶滅危惧種なので乱獲を慎みながら捕ったものであるが、牠は飼育を試みた結果である。ギフチョウの飼育は簡単な方だと思う。まず食草を鉢植えで多めに育て用意してから、母チョウが産卵した真珠色の卵塊が付いた葉を持ち帰って孵化を待つ。

幼虫が食草の縁をかじって進む姿はなんともいえず可愛いく、脱皮を繰り返して終齢幼虫になるころには2～3cmに育って真っ黒い毛虫になる。

この頃の幼虫をモデルにしたキャラクターもあるようで、手のひらに乗せてみれば適度な黒いツヤのあるコロコロした姿をしており、話すことが出来れば素晴らしい話が聞けそうな気がする程。

ギフチョウはアゲハの仲間、幼虫は驚いたり身を守るためにアゲハ類と同様に頭部から臍角というオレンジ色の二股に分かれた突起を出す。

ギフチョウ以外の有名なチョウで向島では生息が確認されていない種と例えば、旅するチョウ「アサギマダラ」(食草はキジョラン<ガガイモ科)>・ヒラヒラユルユルと飛び交う「ジャコウアゲハ」(食草はウマノスズクサ<ウマノスズクサ科)>・国蝶とされる「オオムラサキ」(食草はエノキ<ニレ科)>。

この内「アサギマダラ」はフジバカマ<キク科>を植栽すれば高い確率で現れる。ジャコウアゲハやオオムラサキも食草を育てて幼虫飼育することが出来、かわいいイモムシ時代と羽化して飛び立つその時を見せてくれる。

身のまわりが、いつまでもそんなチョウ達の飛び交うような環境であるよう、素晴らしい豊かな自然が残るように願います。

はな とり こんちゆう うみべ あそ

～ 花と鳥と昆虫と海辺に遊ぶ ～

つるかめクラブ 江頭 正